

## 議 事 概 要

### 1 開会

- ・事務局から開会の挨拶を行い、配付資料の確認と欠席委員等の報告を行った。

#### 【配付資料の確認】

- ・会議次第
- ・資料 1 : 委員名簿
- ・資料 2 : 委員会設置要綱
- ・資料 3 : 今年度の環境教育関連事業について
- ・資料 4 : 環境教育プログラムの策定状況について

#### 【欠席委員等の報告】

- ・伊藤委員と高坂委員は欠席。
- ・宮森委員は遅刻、藤田委員は早退。

### 2 挨拶

- ・札幌市環境局環境都市推進部長から挨拶があった。

### 3 委員自己紹介

- ・各委員より、近況などについて簡単な自己紹介があった。
- ・会長と副会長の選任を行い、会長には小林委員、副会長には森田委員がそれぞれ選任された。
- ・選任された小林会長から挨拶があった。

### 4 議事 ( 1 ): 環境教育関連事業について

- ・資料 3 に基づき、事務局から説明を行った。  
現在行っている事業
  - ・プログラムの策定、環境副教材の改訂 ( 詳細は議事 で説明 )
  - ・校外学習用バス貸出
  - ・環境教育へのクリック募金
  - ・環境プラザにおける総合学習支援今後進めていく事業
  - ・環境教育ホームページの作成
  - ・環境関連施設連携事業
  - ・環境教育施策一覧の作成

#### 【質疑応答・意見等】

< 校外学習用バス貸出について >

- ・良い事業なので是非推進して欲しい。大きなバスばかりではなく、小さなバスも活用するなど、希望する学校全てにバスを貸し出せる方法を考えないといけない。(藤田委員)
- ・利用枠を増やしてもらえればいいと思う。(小林会長)

- ・この事業は希望する学校が多く、予算の枠をオーバーしてしまったため、残念ながらいくつかの要請はお断りした。実際に提案していただいた学習内容や、バスの有効活用などの観点で貸出校を選考した。(事務局：環境局 吉津係長)
- ・北海道教育大学では、バスを持っている。運用は大学の講義でも使うが、附属の学校の学習でも使い、ほぼ平日は埋まっている。そうしたやり方もできるのではないかと思った。うまく活用して、子ども達の勉強する機会を増やしていただければいいと思う。(森田副会長)
- ・イニシャルコストや、市役所として所有する方法などを考慮して、検討させていただきたい。(事務局：環境局 吉津係長)

#### <環境教育へのクリック募金について>

- ・藤田委員は、教材として塩水を使って電気分解をするなど、なるべく自然のものを使っていると聞いている。既製品についてはいかがだろうか。(小林会長)
- ・子どもたちには、できるだけ身近にあるものを使う方がいいと思っている。簡易水質検査セットは大変立派だが、パックの後始末が大変で、野外で使ったものが水辺に落ちたりしていることがあり、それはよくない。(藤田委員)

#### <環境教育施策一覧について>

- ・環境教育施策一覧は、具体的にどんな形のものイメージしているのか。(丸山委員)
- ・札幌市では環境局と教育委員会が中心になって環境教育を進めているが、他の部局で実施しているものも含めて、札幌市ではこんな事業をしているというものを作りたいと考えている。形としては、冊子というか紙ベースのものを考えている。ホームページでは、PDF形式でダウンロードできるようにしたいと思う。(事務局：環境局 吉津係長)
- ・理解した。資料では「現在行っている事業」というのは4つあるが、実際はもっとたくさん行われていると思う。だから、それらを具体的にまとめていくときに、先生や子どもたちがどう関わっていけるのかを考えると、施策レベルではなく、市民が直接使えるような事業レベルでの掲載を意識した方がいい。そうすると、各事業はまとまりを持ったものとして考えられるのではないか。(丸山委員)
- ・ご指摘のとおり、施策レベルでは漠然としている。「第2次新まちづくり計画」もかなり大きな施策体系になっていて、環境教育もその中に入るが、細かい内容ではない。実際に活用するにはどうしたらいいかを考えると、事業レベルの情報が必要になってくる。環境局や教育委員会、そのほかのところも、それぞれの事業の担当課を書くようにし、その連絡先があれば使いやすいだろう。(事務局：環境局 吉津係長)

## 5 議事(2): 環境教育プログラムの策定状況について

- ・環境プログラムの策定と副教材の改訂の状況に関して、概略については資料4に基づき、事務局から説明を行った。
- ・小学校のプログラムについては、資料4-1に基づき、三木委員から説明を行った。
  - 【プログラム(案)の例】
  - 「二酸化炭素と酸素」、「ごみを減らすために」、「チャレンジ! ウォームビズ」
- ・中学・高校のプログラムについては、資料4-2に基づき、小路委員から説明を行った。
  - 【プログラム(案)の例】
  - 「環境ISO Sapporo エコライフの取り組み」、「給食用牛乳パックをリサイクルしよう」
- ・家庭・地域・職場のプログラムについては、資料4-3に基づき、宮森委員から説明を行った。
  - 【プログラム(案)の例】
  - 「省エネ大作戦!」

・副教材の改訂については、資料4 - 4に基づき、白崎委員から説明を行った。

【作成ページ(案)の例】

「かぞくといっしょに」(1・2年生用)「わたしたちのくらしと雪」(3・4年生用)

【質疑応答・意見等】

<プログラムの位置付けについて>

・この委員会が発足した時は、基本方針の改定を行い、基本方針と実行計画をドッキングした形で作って、そしてプログラムをワーキンググループで考えていく形で進んできた。しかし、話し合いの結果、基本方針と実行計画をドッキングさせると、実行計画を改定する際に作業が非常に煩雑になるので、基本方針と実行計画は分離するという経緯を確認した。それを踏まえ、いったん無くなったように感じられる実行計画の役割を何が担っているのかを確認したい。プログラムが実行計画の位置付けになるのかどうかを聞きたい。(丸山委員)

・プログラムは、環境教育を進めるうえでの便利なツールであり、実行計画という位置付けではない。実行計画を立てたいところだが、札幌市全体の「第2次新まちづくり計画」との兼ね合いを見なくてはいけないため、まだできていない。実行計画の役割を担うのは、「環境教育施策一覧」であると考えていただきたい。(事務局：環境局 吉津係長)

<プログラムの具体的な形態について>

・プログラムは何ページくらいのもので、学校の先生全てに配布されるものか。いつまで使うということを前提に作成しているのか。(丸山委員)

・プログラムは、小学校版と中学・高校版が各10～15種類、家庭・地域・職場版が6種類あるので、資料などを加えるとトータル100ページを超える。これを全ての先生に配布するには1万部程度必要になるので難しい。ただ、基本方針も各学校に10冊ずつ送っており、その位は配布したい。ホームページで公開するので、実際に活用していただくときは、ホームページを見てもらうことになる。使用期間については、「第2次新まちづくり計画」の4か年くらいと考えている。その中で意見をもらい改訂を図る。なお良いものはずっと使ってもいいと考えている。(事務局：環境局 吉津係長)

<プログラムの配布方法や今後の訂正作業などのスケジュールについて>

・プログラムをホームページで公開するのもいいが、インターネットを活用できない人は冊子を欲しがらる。これだけ力強く作るものだから、原価程度の有償で分けられるものであってもいい。また、具体的な話になるが、プログラムに掲載している図などの出典はどうなっているのか。今後の作業として、細かい内容の変更は、いつくらいまで調整可能なのか。(森田副会長)

・ホームページを活用できない人のために、冊子は必要であると考えている。できるだけ無償にしたいが、どのくらい需要があるのかを調べ、かなりの需要があれば有償ということも考えられる。(事務局：環境局 吉津係長)

・有償の制度はあるのか。(小林会長)

・制度はある。札幌市の環境白書も1,000円で販売している。また、図の出典は様々であるが、著作権の問題があるので、事務局で使用許可等を一括して行うこととする。作業スケジュールは、1月中に編集作業を行い、2月初めに大まかなものが出来上がる予定である。その時点でチェックできれば修正が可能であるが、今後、細かい点については、各ワーキンググループの代表者と事務局で新たなワーキンググループを立ち上げて調整するので、基本的にはそちらにお任せいただければと考えている。(事務局：環境局 吉津係長)

<語句の統一について>

・先生達のご苦勞を感じる。プログラムは、現時点では未完成であると認識しているが、今後、「CO2」

と「二酸化炭素」といった語句の統一が必要である。また、略語や何度も出てくる用語に注釈をつけるなど、工夫をしていただくと読みやすくなる。(西村委員)

- ・「CO<sub>2</sub>」を習うのは中学校2年であり、小学校は「二酸化炭素」である。(小路委員)
- ・炭素はどうか。炭素の存在をどう示すか。(大野委員)
- ・説明をしないとイケない。有機物と無機物の違いを知らない先生もいる。(三木委員)

<プログラムの改良・追加等について>

- ・資料4にプログラムの改良・追加について書かれており、いろいろと意見を受け付けて改良していくのだろうが、これはどんなスケジュールで行うのか。毎年なのか。(大野委員)
- ・現在、4つのワーキンググループがあるが、来年度からは一つに集約したプロジェクトチームとして再構成したいと考えている。そのチームが年に何回か集まり、会議で出た意見やホームページに寄せられた意見などをもとに、検討を行って改良していきたいと考えている。また、プロジェクトチームは、「第2次新まちづくり計画」の期間中は続ける予定である。(事務局：環境局 吉津係長)
- ・プログラムのデータは古くなるので、それぞれ時期がきたら内容の見直しが必要である。10年前にも環境教育資料を作ったが、データとしては古くなってしまった。実際には活用できないものも出てきたので、常に検証しなければならない。また、副教材の改訂の話もあったが、基本的にコンセプトはいいと思う。これからの取り組みに期待したい。(小鍛冶委員)
- ・プログラムの良さや問題点はホームページでも書いてもらって、議論することも最低限必要である。実際に学校で使われるわけだから、使った先生が報告するともいだろう。また、プロジェクトチームで検討するなら、第三者の目でどんな授業がいいのかなどを考え、授業研究的な取り組みをしてはどうか。そうした取り組みの予算はあるのか。(大野委員)
- ・環境局ではその辺の予算の枠組みはないが、教育委員会と相談したい。(事務局：環境局 吉津係長)
- ・委員のご指摘のとおり、検証していくのは大変重要なことと考えている。授業研究的な取り組みについて、前向きに検討していきたい。ワーキンググループの委員からは、そういう研究的な授業に十分耐えられるプログラムを作成してもらっている。(事務局：教育委員会 附田指導主事)
- ・今の内容で良いと思うが、社会的な情勢によっても、情報や内容などは変わっていく。学校基本法もまさに変わらんとしているので、今回示している改良・追加がしやすくなるような体裁にしたい。さらにプログラムの重点行動に上がっている“省エネになるような配布”をすべき。1冊が120ページにもなるなら、例えば小学校には小学校の部分だけを印刷したものでいい。また、紙をやめてPDFでダウンロードできるようにするなど、省資源になるようにして欲しい。(丸山委員)

## 6 議事(3): その他

・公務が忙しい中で、ワーキンググループでも議論しながら進めていただき、感謝申し上げます。今後、いろいろな意見を参考にしながら検討していただきたい。(小林会長)

<今後の事業の見通しについて>

- ・ワーキンググループの委員の皆様には、大変な作業に取り組んでいただき、今年度中にプログラムの策定、副教材の改訂を行い、ホームページでも公開して、来年度から活用していただくと考えている。(事務局：環境局 吉津係長)
- ・ホームページが使えるのは5月頃からか。(小林会長)
- ・できれば4月、新年度の早いうちにといいことで考えている。(事務局：環境局 吉津係長)

<次回(2回目)の委員会の日程について>

・次回の委員会は3月下旬を予定しており、具体的な日程については、改めて連絡させていただきたい。(事務局：環境局 宇治課長)

## 7 閉会

(事務局から閉会の挨拶)

- 以上 -